

## 「ふくしま YMCA」 設立趣意書について

### 1.

今から約180年前、「教会の外」での奉仕活動として、ロンドンの学生が運動体を起こしました。「YMCA」の始まりです。教会はどうしても「内向き」になりがちなので、いつも、こうした動きが出てきます。神様の恵みです。

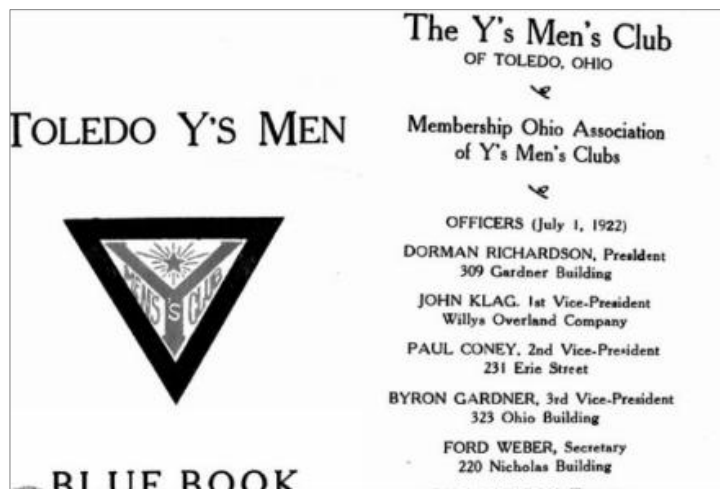


<https://x.gd/k2B8P>

### 2.

YMCA の運動は、ロンドンから世界各地に広がりました。

そして、学生生活を終えて社会人となった方々が、YMCA 運動を支えるクラブを作り始めました。始まりは、米国オハイオのトレド市、1922 年のことでした。



ワイズメンズクラブ国際協会と名付けられたこの運動体は、今、76 国・1,504 クラブ・25,076 名で活動を継続しています。その「国際協会」の中に「アジア太平洋地域」があります。韓国とインドを除くアジア太平洋地域をカバーしています。

その中で日本の存在感は大きく、国内に 134 クラブ・2,081 名が活動しています。あまり他の国々と規模が違う、ということで、日本は 30 年ほど前に「東日本区」と「西日本区」に分かれました。今は、おおよそ、6 月の第一土曜日に「東日本区大会」、第二土曜日に「西日本区大会」が行われています。

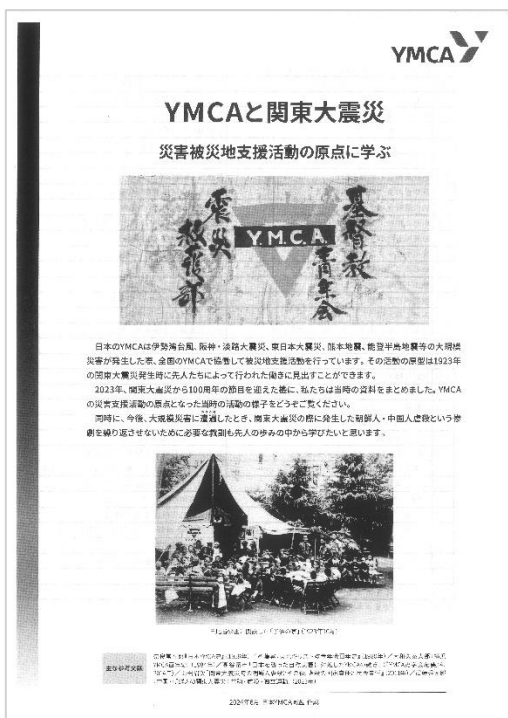
来年の「東日本区大会」は、石巻で行われます（添付のチラシをご覧ください）。ここで「ふくしま YMCA」の設立に向けた動きを大きくアピールできないか、と考え、今、私たちは一步を踏み出した、という感じです。

### 3.

YMCA 運動についていえば、日本でも大阪、東京そして仙台あるいは日本全国の諸大学で、150 年ほど前に活動が始まります。各都市と大学の YMCA は「日本 YMCA 同盟」を結成し、連帯して運動を進めています。

福島には、かつて、仙台 YMCA との繋がりの中で、相双地域に学生の YMCA 運動があった、と聞いていますが、詳細は分からずにいます。また、やはり仙台 YMCA との繋がりの中で、会津にワイズメンズクラブがありましたが、震災後、残念ながら、解散となって行きました。

そうした中で、2011 年以降、東日本大震災への支援として、福島県への支援が、続々と、全国の YMCA・ワイズメンズクラブによって広範囲に実施されました。しかし、それらは、なかなか、連帯したものとなりませんでした。受け皿になる団体の必要が、痛感されました。



<https://x.gd/Z0Kjin>

それで、全国YMCA  
総主事会議は「ヴァー  
チャルな YMCA」を  
構想してみようと、一  
つの冊子を作りました。  
それが「ふくしま  
YMCA」と名付けられ  
たのです。

#### 4.

この冊子を起点に  
して、「ふくしま  
YMCA」を設立させ  
よう、と、努力が始  
まったのですが、ほ  
どなく「コロナ」の  
騒動になりました。  
YMCA 側での動きは、  
止まってしまいまし  
た。



そこで、ワイズメンズクラブの本州関東以北の地域の責任者（大久保さんとおっしゃいます）が、「この動きを再起動しよう！」と大きく呼びかけて下さいました。

そして、福島県に隣接する 3 県の都市 YMCA（仙台・とちぎ・茨城）の総主事と、冊子「ふくしま YMCA」作成時の担当者でもあった盛岡 YMCA 総主事が、ワイズメンズクラブの志に即応して下さいました。

## 5.

そのタイミングで、日本バプテスト連盟福島主のあしあとキリスト教会の大島博幸牧師（右下写真）が、NPO 法人「東北ヘルプ」の繋がりの中で、この運動に主体的に関わり始めて下さいました。

大島先生は、長く YMCA 運動に関わって来られ、前任地の埼玉では YMCA の理事も担われていたのです。

NPO 法人「東北ヘルプ」代表の川上は、被災地支援の一環として、石巻のワイズメンズクラブを支援していました（今は、その書記をしています）。



福島赴任後、大島牧師は東北ヘルプの理事に加わって下さり、東北ヘルプが事務局を務める食品放射能計測所を、福島市で開設して下さいました（仙台にあった計測所を移設したのです）。

そうした中で、大島先生の教会が、素晴らしい会堂建設を成し遂げられました。その新会堂を、地域のために用いたいと、大島先生が志を抱かれ、そして今、「ふくしま YMCA」のための会議は、毎回、福島主のあしあとキリスト教会で開催されています。その会議の中で、



福島主のあしあとキリスト教会

- 福島市内で子どもたちの被ばく減災に努めてきた「キッズケアパークふくしま」が、今、追究しておられる「国際全人教育」を、支援すること。
- 震災後に始まった EIWAN(福島移住女性支援ネットワーク)が進めている「人権としての日本語教育」を支援すること。
- フクシマ(原発事故の被災地全域)の複雑さを肌身に知りながら「平和」を学ぶ、そのような機会を提供すること。

——等を目指した YMCA 運動を始めよう、と、話がまとまって来た、ということ、別紙ファイル「趣意書」が出来上がりました。